

第2章 健康づくりにかかる現状

1. 統計データからみた市の現状

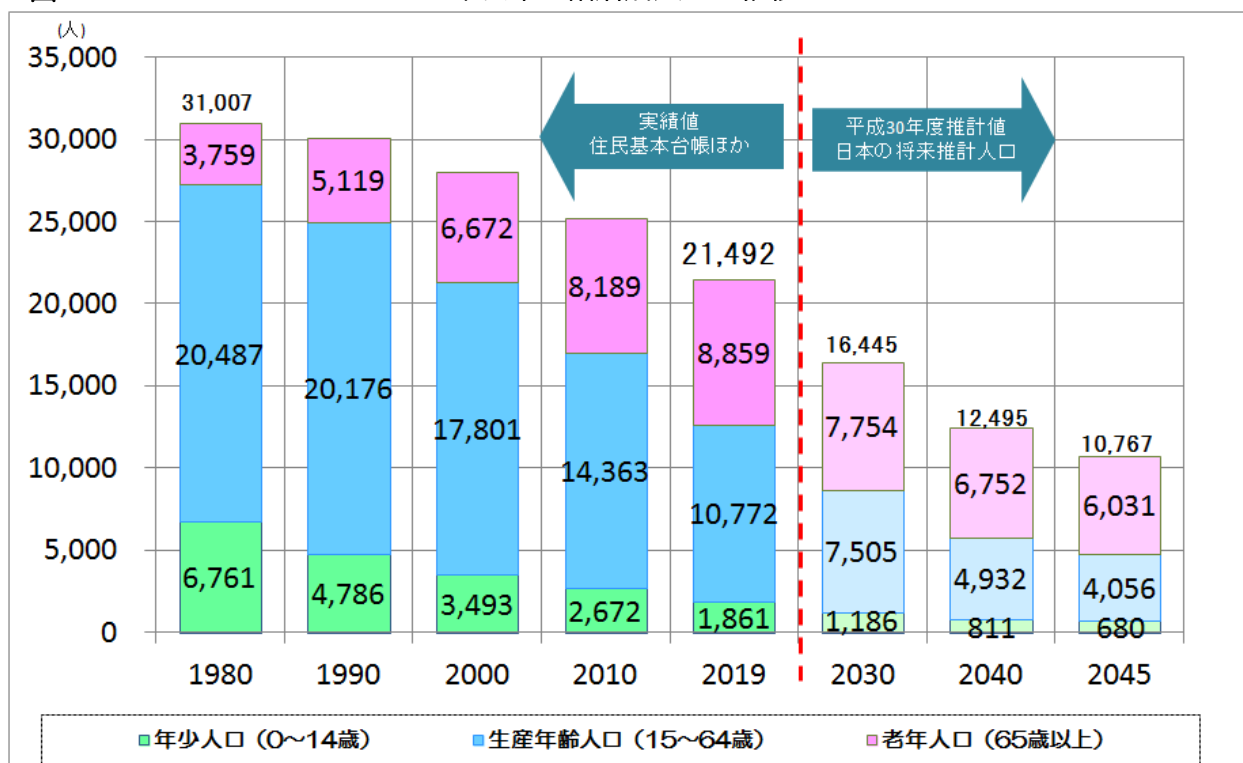
1. 人口推計

1980年（昭和55年）から10年刻みで本市の階層別人口を示したもので、2019年（令和元年）以降は、国立社会保障・人口問題研究所の推計に基づき2045年（令和27年）までの予測をグラフで示しました。

年少人口（0～14歳）は、1980年の6,761人、2019年には1,861人と過去40年間で大幅に減少しており、生産年齢人口（15～64歳）についても40年間で半減しています。対照的に老年人口（65歳以上）は1980年の3,759人から2019年は8,859人となっており、少子高齢化が顕著であることが見て取れます。

高齢化率（65歳以上の割合）も、2019年（令和元年）41.2%、以降2030年（令和12年）47.2%、2040年（令和22年）54.0%、2045年（令和27年）には56.0%と予測されています。

図1 下田市の階層別人口の推移



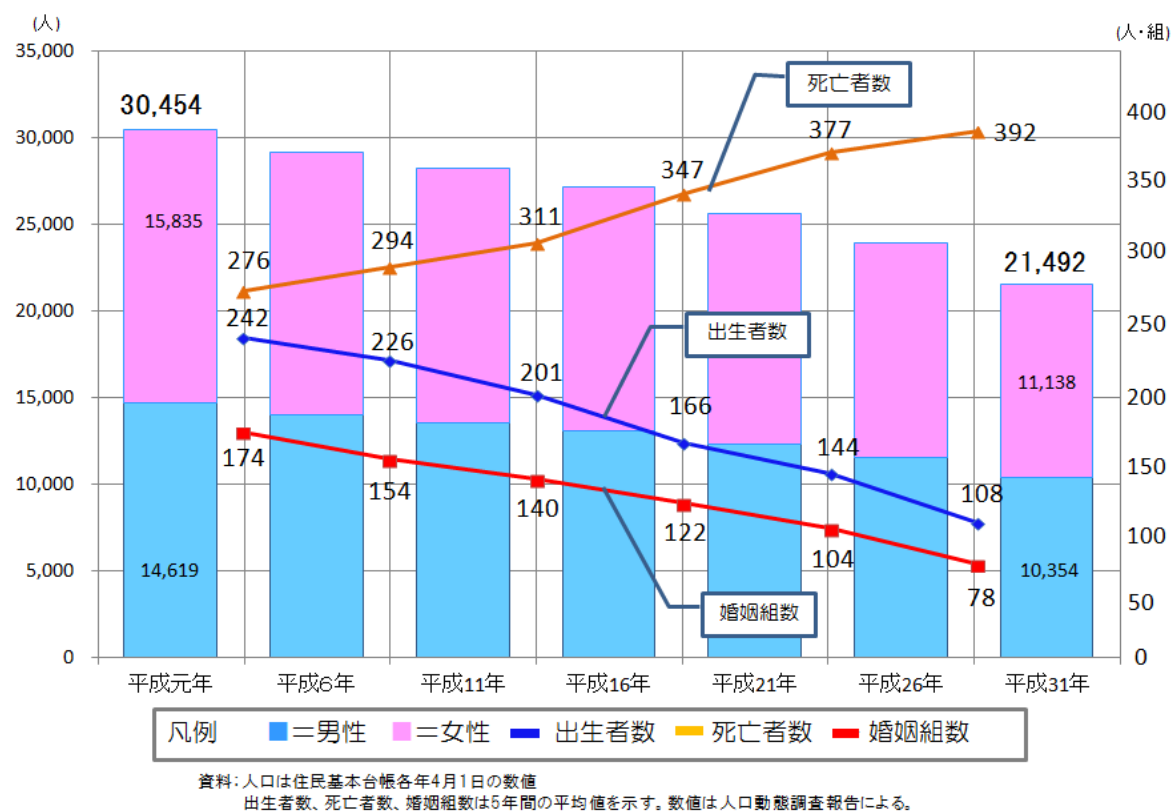
資料：1980年：国勢調査、1990年：静岡県年齢別人口、2000～2019：住民基本台帳
2030～2045年：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」

2. 出生・死亡

1989年（平成元年）から5年刻みで2019年（平成31年）までの本市の男女別人口を棒グラフで示しました。併せて、5年平均の自然動態の出生者数と死亡者数、及び婚姻組数を折れ線グラフで示しました。平成元年から平成31年までの30年間で8,962人の減で、男女構成比はほぼ同じ比率となっています。30年間の年平均は300人/年減ですが、近年5年間は474人/年減となっています。

自然動態を見ると、平成元年頃は出生者数と死亡者数はほぼ拮抗していましたが、近年5年間は死亡者数の1/4強の出生者数と、少子高齢化が顕著であることが見て取れます。特に本市では、婚姻組数の約1.4倍が出生者数となる傾向となっています。なお、令和元年度の出生者数は80人程度と見込まれています。

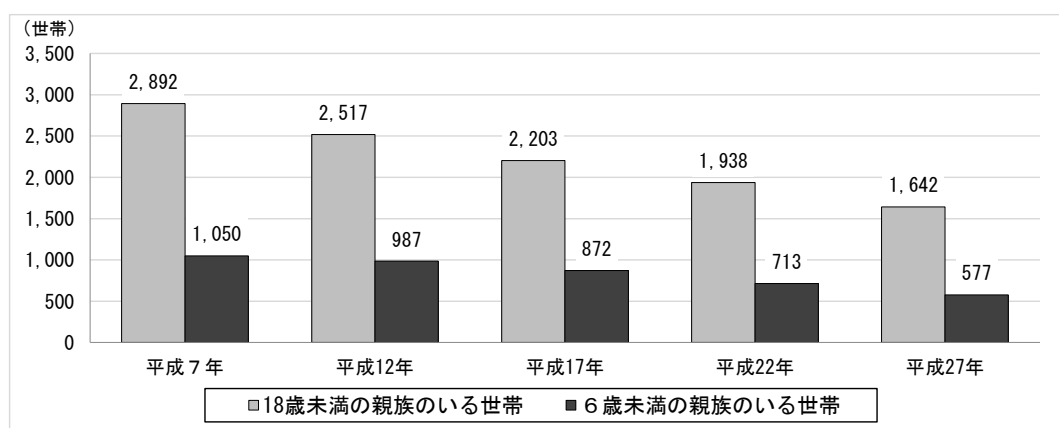
図2 下田市の男女別人口と自然動態（出生・死亡）・婚姻組数の推移



子どものいる世帯数の推移

18歳未満の親族のいる世帯数の推移は、1995年（平成7年）以降減少傾向が続いており、1995年（平成7年）から2015年（平成27年）までの20年間で1,250世帯（43.2%）減少しています。6歳未満の親族のいる世帯数の推移は、1995年（平成7年）以降減少傾向が続いており、平成7年から平成27年までの20年間で473世帯（45.0%）減少しています。

図3 子どものいる世帯数の推移



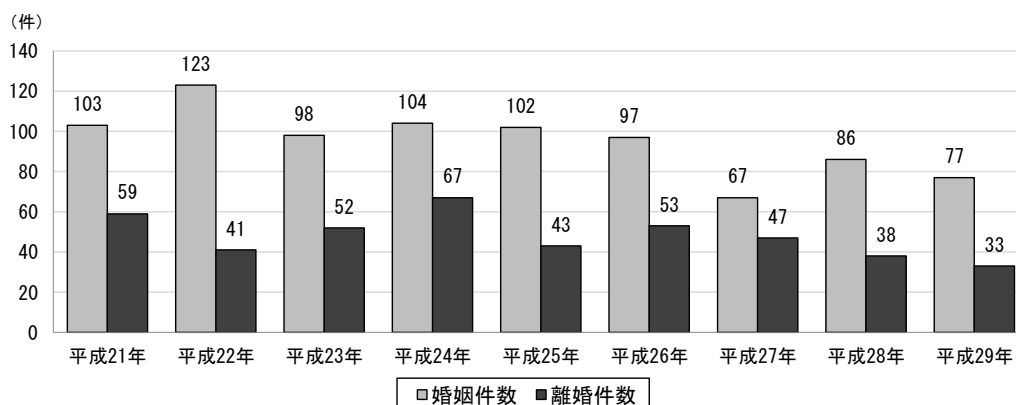
資料：国勢調査（各年10月1日時点）

婚姻・離婚件数の推移

婚姻件数は、2010年（平成22年）の123件をピークに減少傾向がみられ、平成26年以降は100件以下となっています。なお、2017年（平成29年）には77件となっています。離婚件数は、増減を繰り返しながら推移しています。最も離婚件数が多かった年は2012年（平成24年）の67件となっています。なお、2017年（平成29年）には33件となっており、直近では最も少ない件数となっています。

婚姻件数と離婚件数を比較すると、各年で婚姻件数が離婚件数を上回っています。

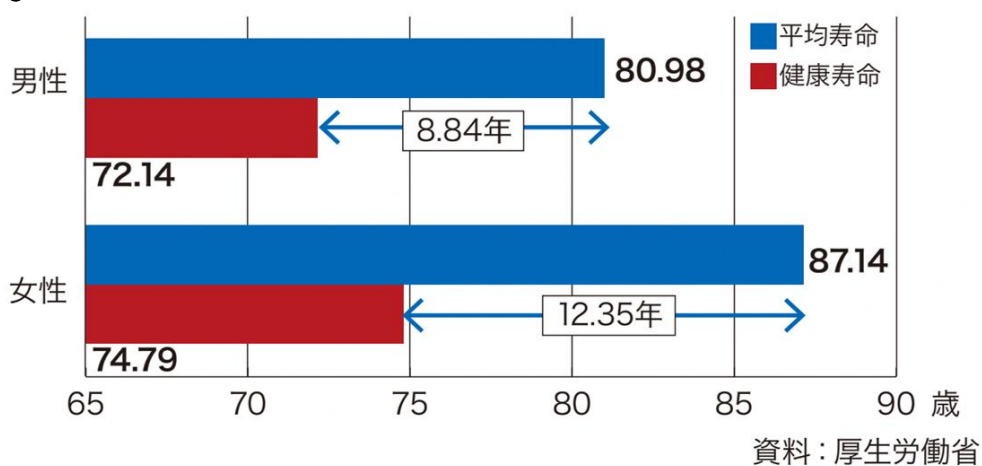
図4 婚姻・離婚件数の推移



3. 健康寿命と平均寿命の差

2015 年（平成 27 年）の平均寿命は男性 80.98 年、女性 87.14 年。これに対し、日常生活に制限のない期間をあらわす健康寿命との差は男性 8.84 年、女性 12.35 年と開きがあり、少子高齢化とともにいかに健康で過ごせる期間を伸ばしていくかが課題となっています。

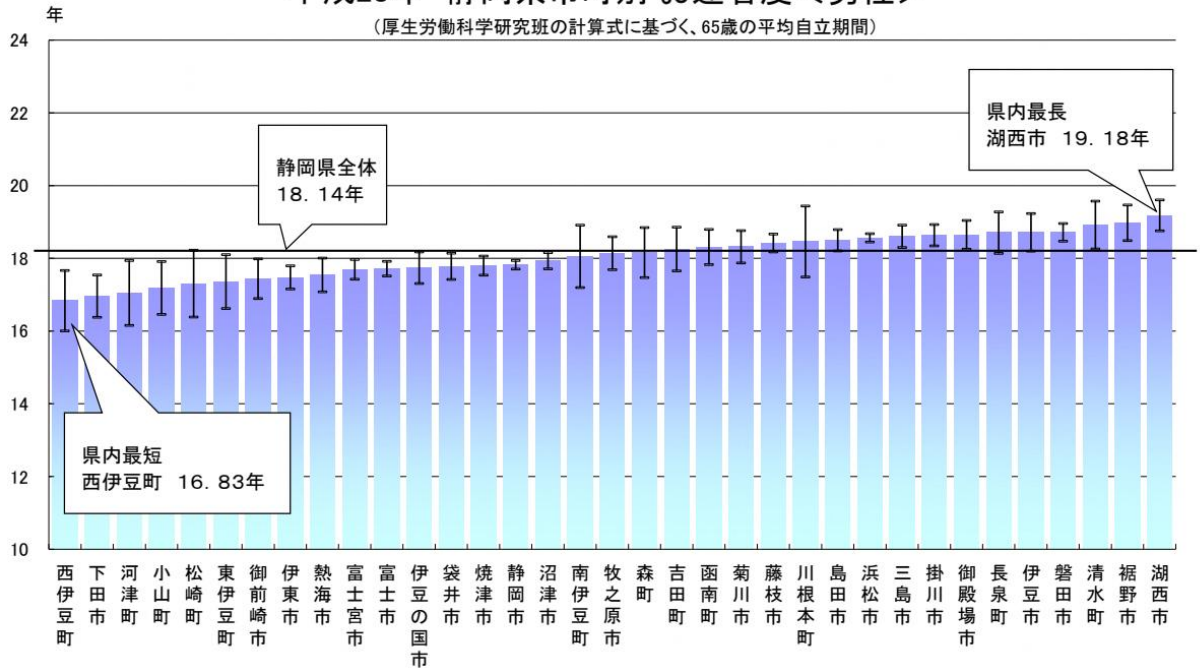
図 5



また、静岡県が分析している市町別「お達者度」※では、2016 年（平成 28 年）のお達者度順位は、本市男性 34 位（35 市町中）で県平均より 1.18 年短い 81.96 歳、女性は 32 位（35 市町中）で県平均より 0.96 年短い 85.24 歳と分析されています。

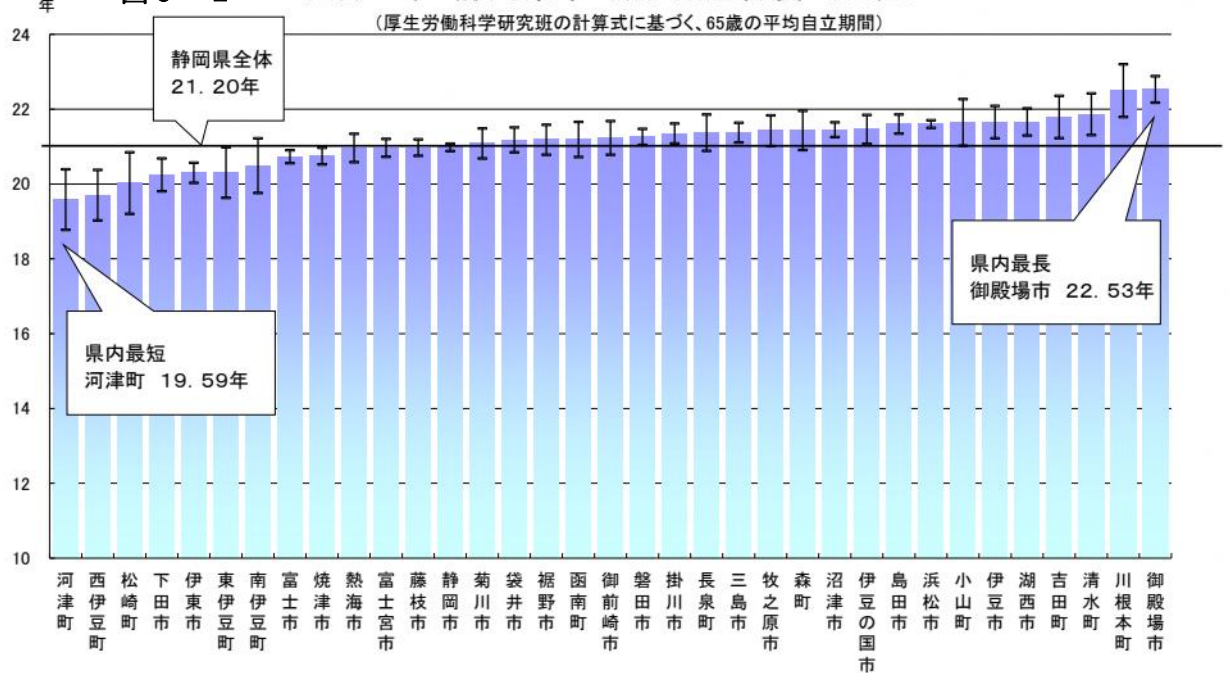
※お達者度：65 歳から元気で自立して暮らせる期間を静岡県が算出したもので、県内市町の介護認定の情報、死亡の情報をもとに、生命表を用いて算出されます。

図6-1 平成28年 静岡県市町別 お達者度＜男性＞



※ 棒グラフは「お達者度」を表し、上下の線分は「お達者度」の偶然的な振れ幅の目安を表す。振れ幅は、市町の65歳以上人口が少ないほど大きくなる。

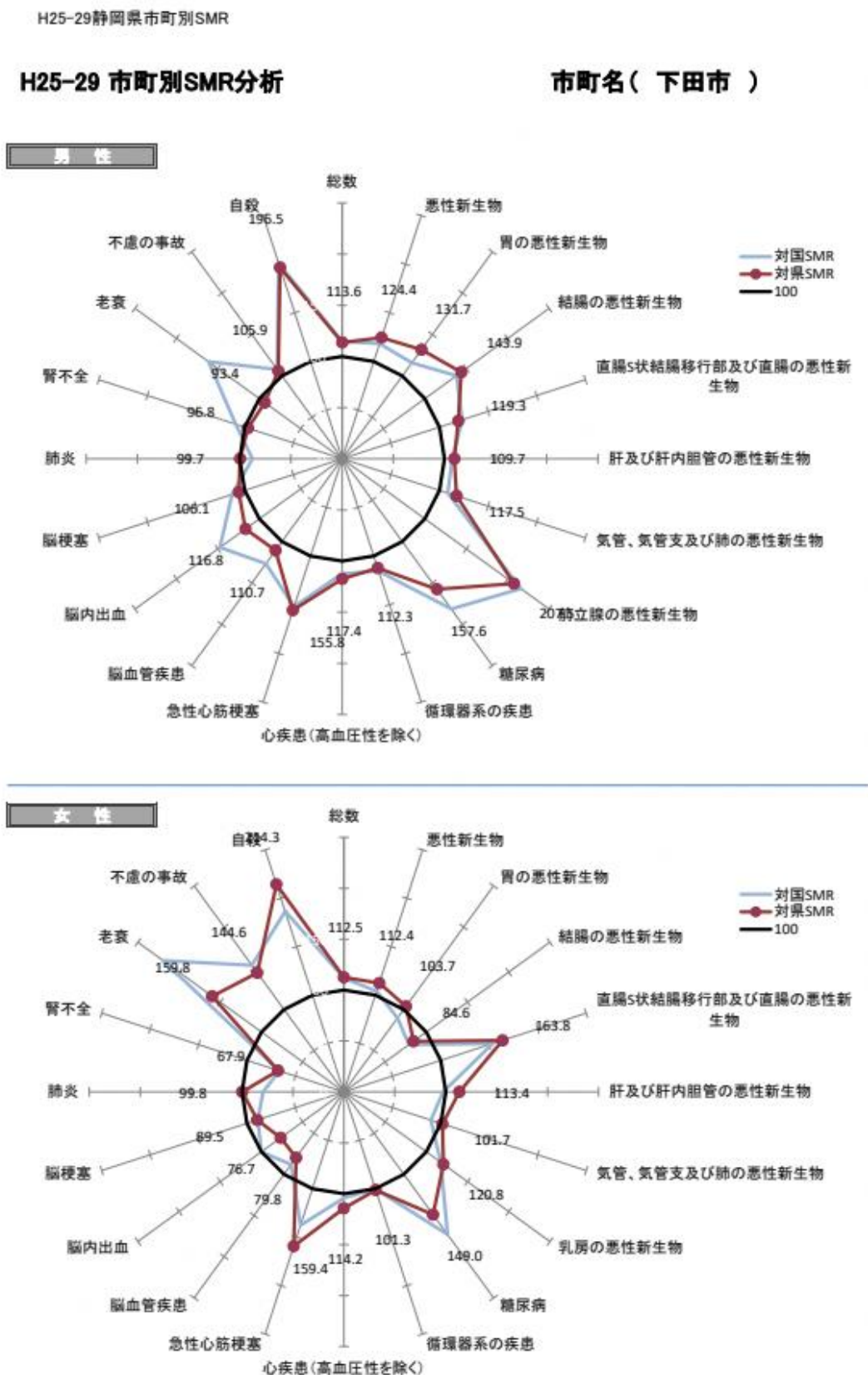
図6-2 平成28年 静岡県市町別 お達者度＜女性＞



※ 棒グラフは「お達者度」を表し、上下の線分は「お達者度」の偶然的な振れ幅の目安を表す。振れ幅は、市町の65歳以上人口が少ないほど大きくなる。

○男性は前立腺の悪性新生物と自殺、女性は自殺と急性心筋梗塞が県平均の死亡を大きく上回っている。

図7-1



死因順位

○死因順位は、賀茂圏域、県とほぼ同順位です。

○三大生活習慣病のうち、悪性新生物、心疾患の死亡率（人口10万対）は、県の死亡率を上回っています。

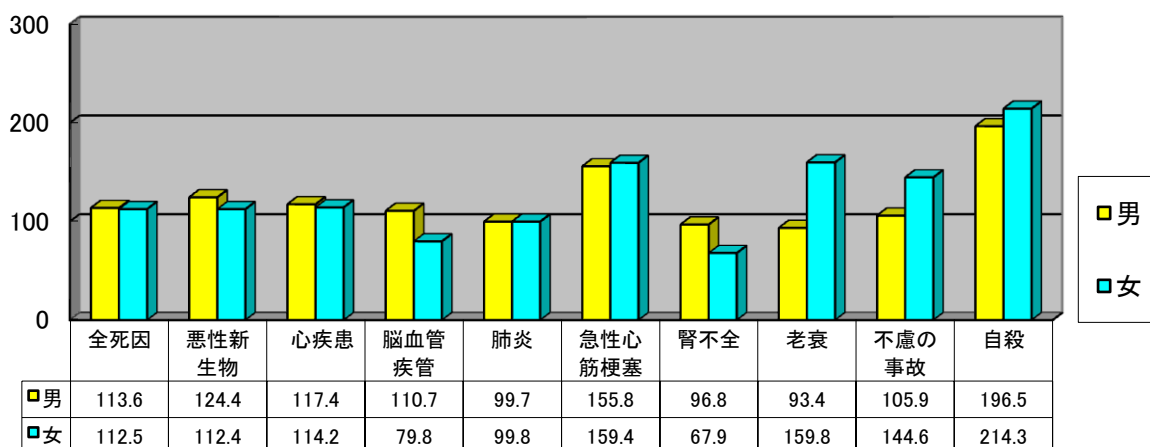
図7-2

年次別死因順位の変動(死亡率は人口10万対)											
区分	年次	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
		死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率
下田市	平成25年	悪性新生物	490.3	心疾患	196.9	老衰	192.8	脳血管疾患	142.5	肺炎	121.5
	平成26年	悪性新生物	482.7	心疾患	293.0	老衰	189.6	脳血管疾患	159.4	肺炎	137.9
	平成27年	悪性新生物	401.5	老衰	240.0	心疾患	222.6	脳血管疾患	144.0	肺炎	113.5
	平成28年	悪性新生物	480.6	老衰	231.4	心疾患	222.5	脳血管疾患	120.1	肺炎	111.2
	平成29年	悪性新生物	490.8	心疾患	345.3	老衰	272.6	脳血管疾患	140.9	心疾患	109.1
賀茂圏域	平成25年	悪性新生物	488.3	心疾患	270.0	老衰	186.7	脳血管疾患	172.3	肺炎	158.0
	平成26年	悪性新生物	466.6	心疾患	285.6	老衰	191.4	脳血管疾患	153.1	肺炎	139.8
	平成27年	悪性新生物	484.7	心疾患	275.4	老衰	216.7	脳血管疾患	161.1	肺炎	159.5
	平成28年	悪性新生物	509.2	心疾患	305.2	老衰	202.5	脳血管疾患	162.6	肺炎	128.8
	平成29年	悪性新生物	463.7	心疾患	316.4	老衰	285.1	脳血管疾患	170.7	肺炎	109.6
静岡県	平成25年	悪性新生物	286.6	心疾患	151.2	脳血管疾患	111.3	老衰	84.7	肺炎	84.6
	平成26年	悪性新生物	287.2	心疾患	149.9	脳血管疾患	110.5	老衰	90.9	肺炎	83.5
	平成27年	悪性新生物	290.4	心疾患	156.9	老衰	106.5	脳血管疾患	105.0	肺炎	87.0
	平成28年	悪性新生物	295.9	心疾患	149.6	老衰	112.0	脳血管疾患	99.9	肺炎	81.1
	平成29年	悪性新生物(腫瘍)	294.7	心疾患	165.9	老衰	126.8	脳血管疾患	104.3	肺炎	70.6
(静岡県人口動態統計)											

標準化死亡比

○SMR(平成 25～29 年)は、急性心筋梗塞や自殺が国に比べて男女ともに、高くなっています。

図 7 - 3 下田市SMR(平成25～29年度) (全国=100)



(静岡県市町別健康指標)

* SMR(標準化死亡比)とは

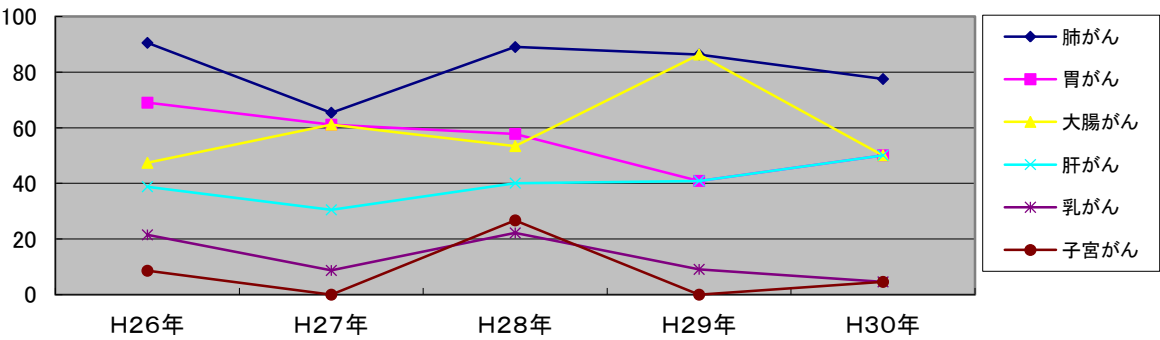
死亡数をそれぞれの地域に生じている年齢構成によるゆがみを修正して比較したものです。ここでは、全国を100とし、SMR が100よりも大きければ、死亡率が全国よりも高いと言えます。

悪性新生物死亡率

○肺がんにおいて、高い死亡率で推移しております。

図 7 - 4

下田市悪性新生物死亡率(人口10万対)



(静岡県人口動態統計)

疾病分類別受診率

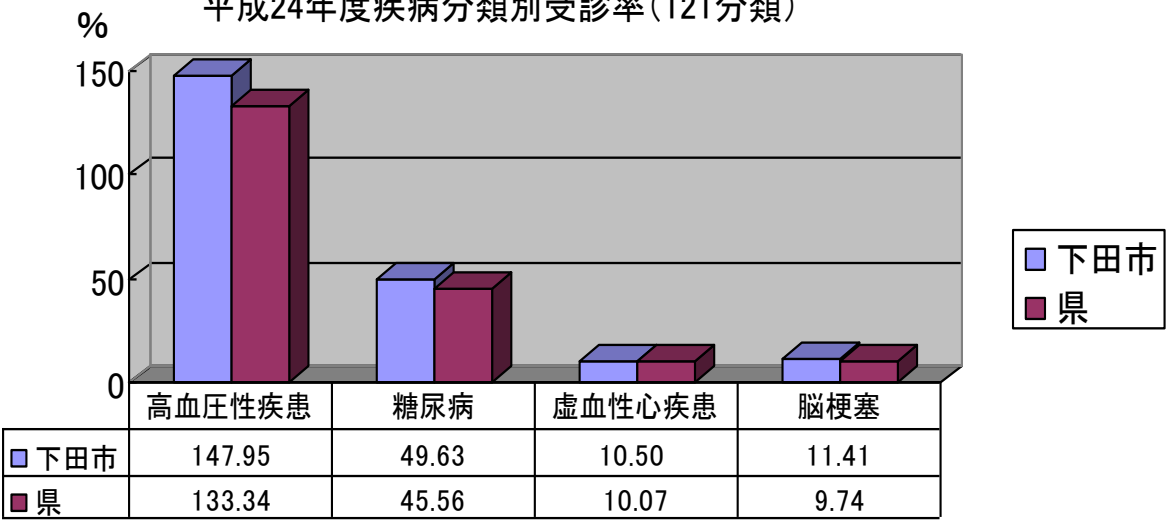
当月レセプト件数 (主病)

疾病分類別受診率 = _____

国民健康保険被保険者数

図 7 - 5

平成24年度疾病分類別受診率(121分類)



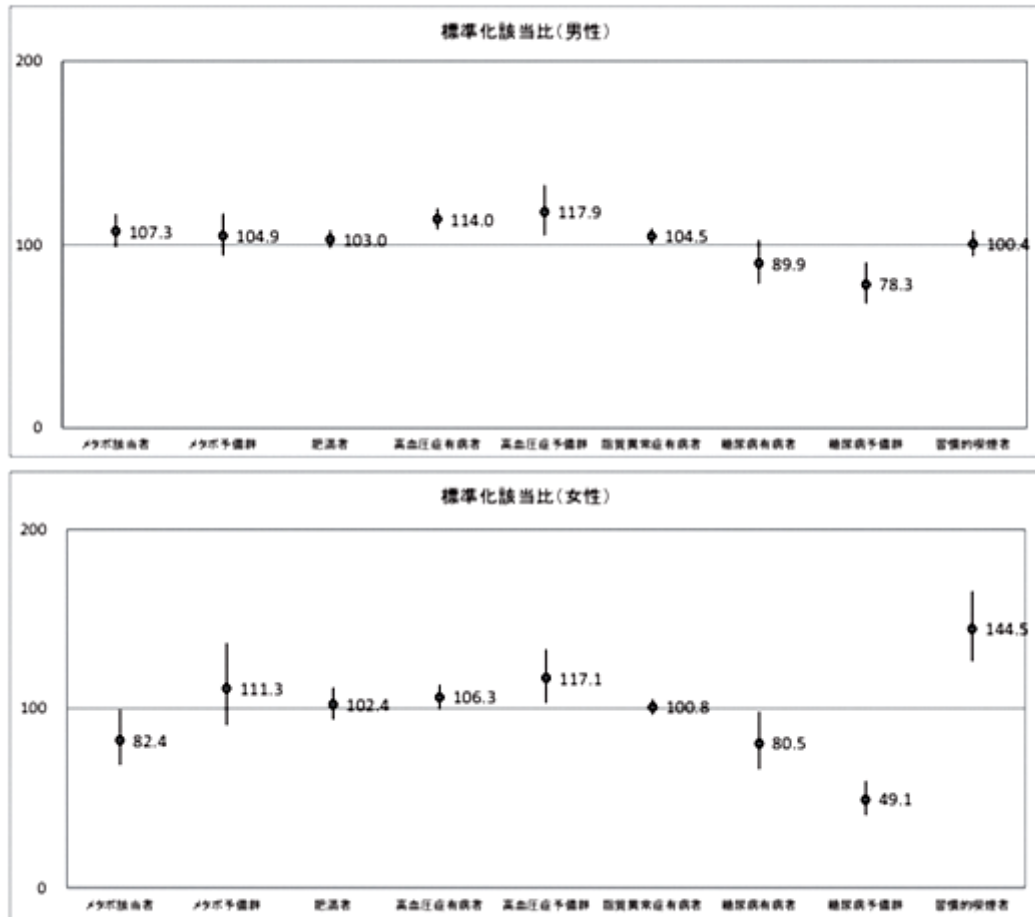
(国民健康保険統計)

4. 生活習慣病の状況

2017 年度（平成 29 年度）特定健診を受診した 40 歳以上 75 歳未満のデータ

図 8

下田市



グラフ及び表の見方

標準化該当比は、静岡県（県内データ全体）の結果と当該市町の結果を比較した値である。静岡県（県内データ全体）を100（基準）としているため、当該市町の標準化該当比が100より大きい場合、当該市町の該当者出現割合は静岡県（県内データ全体）より高く、100より小さい場合、静岡県（県内データ全体）より低いことを示す。

なお、グラフ中の縦軸の大きさは、95%信頼区間を表し、表中の結果は、▽▽ 有意に低い、▽ 低い有意でない、▲ 高い有意でない、▲▲ 有意に高いを示す。

「有意に高い」とは、当該市町の標準化該当比が、偶然的な誤差を考慮しても、静岡県（県内データ全体）の結果（基準）と比べて十分に高いと考えられることを表す。

※ 異常値及び判定区分の設定は、「都道府県健康増進計画改定ガイドライン」の指標定義を参考にした。

項目	男性						女性					
	判定可能者数	該当者数	期待者数	該当比	信頼区間		判定可能者数	該当者数	期待者数	該当比	信頼区間	
					下限値	上限値					下限値	上限値
メタボ該当者	1 593	392	365.2	107.3	98.5	117.0	▲	1 655	102	123.8	82.4	68.3 99.4
メタボ予備群	1 593	261	248.9	104.9	93.9	117.1	▲	1 655	85	76.4	111.3	90.6 136.8
肥満者	1 593	784	761.5	103.0	98.0	108.2	▲	1 671	373	364.3	102.4	93.6 111.9
高血圧症有病者	1 595	759	666.1	114.0	108.2	120.0	▲▲	1 569	571	537.4	106.3	99.5 113.4
高血圧症予備群	1 595	235	199.3	117.9	104.8	132.7	▲▲	1 569	202	172.5	117.1	103.0 133.1
脂質異常症有病者	1 595	935	894.6	104.5	100.3	108.9	▲	1 566	867	859.9	100.8	96.5 105.4
糖尿病有病者	1 596	187	208.1	89.9	78.6	102.8	▽	1 609	90	111.8	80.5	65.9 98.4
糖尿病予備群	1 596	164	209.4	78.3	67.8	90.5	▽▽	1 609	92	187.2	49.1	40.3 59.9
習慣的喫煙者	1 597	502	499.8	100.4	93.4	108.0	▲	1 678	183	126.6	144.5	126.1 165.6

○高血圧症有病者が男女ともに減少傾向ではあるが、市町村国保全体や県と比較すると多い
です。

また男性の習慣的喫煙者は市町村国保全体や県より低く、年々減ってきているが、女性は
市町村国保全体や県と比較し約 1.5 倍と多く、横ばいの状態となっています。

図 9 - 1 メタボ該当者(男性)

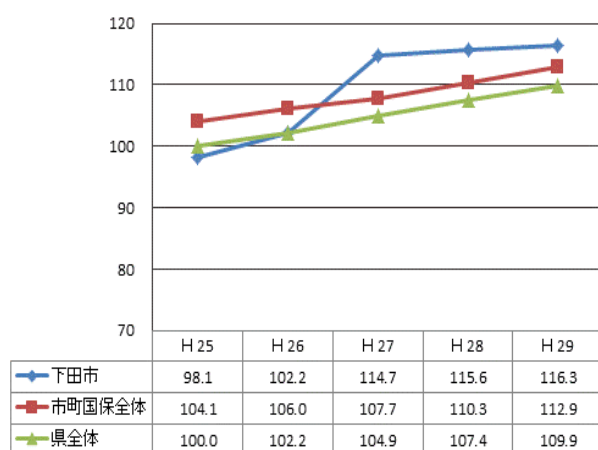


図 9 - 2 メタボ該当者(女性)

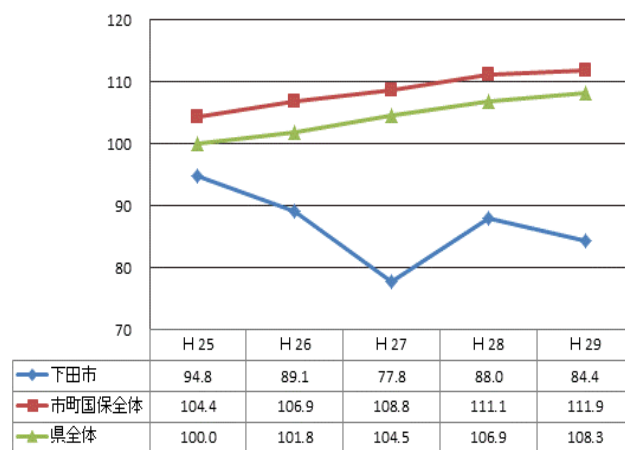


図 9 - 3 高血圧症有病者(男性)

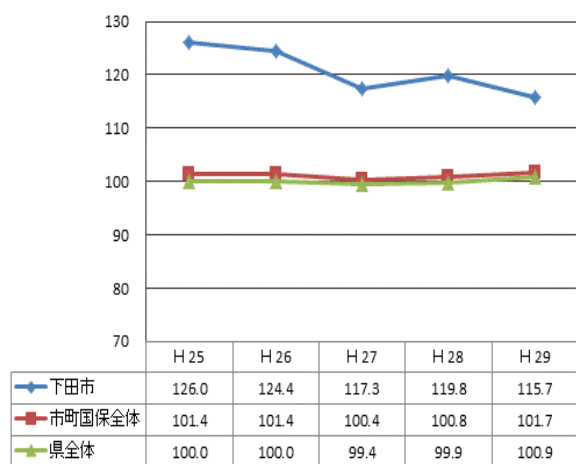


図 9 - 4 高血圧症有病者(女性)

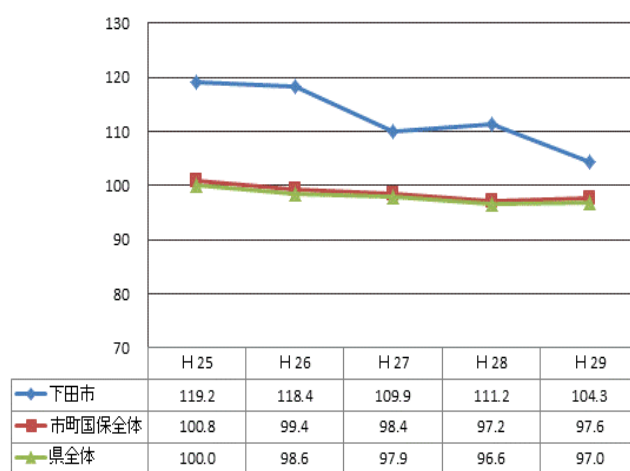


図 9 - 5 脂質異常症有病者(男性)

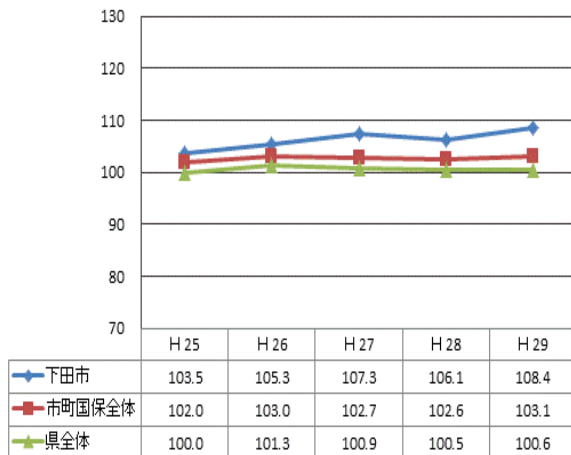


図 9 - 6 脂質異常症有病者(女性)

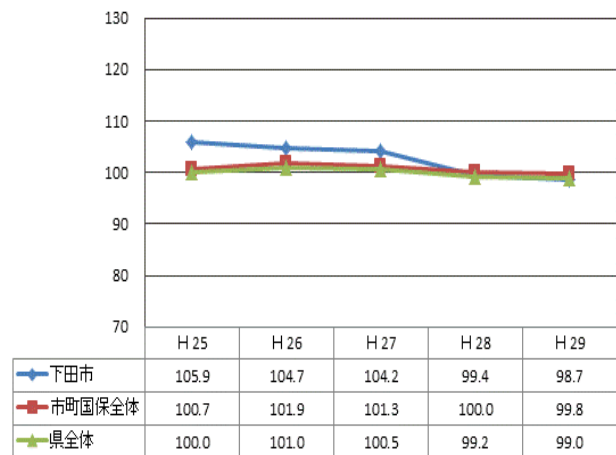


図 9 - 7 糖尿病有病者(男性)

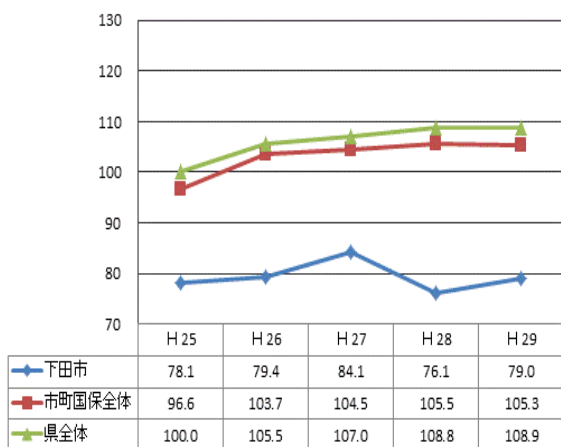


図 9 - 8 糖尿病有病者(女性)

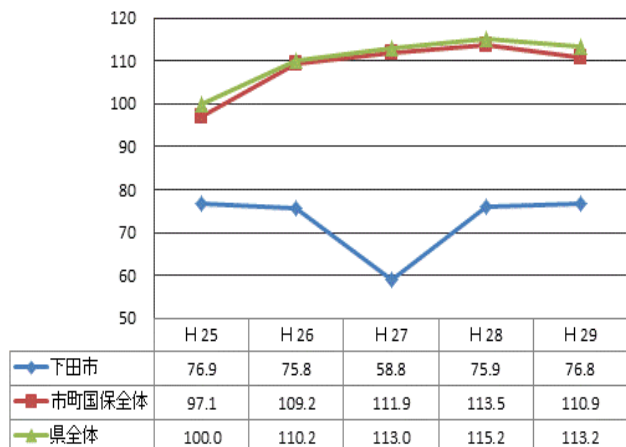


図 9 - 9 習慣的喫煙者(男性)

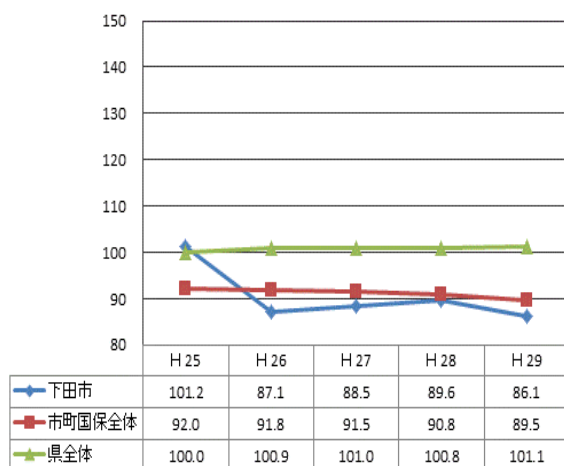
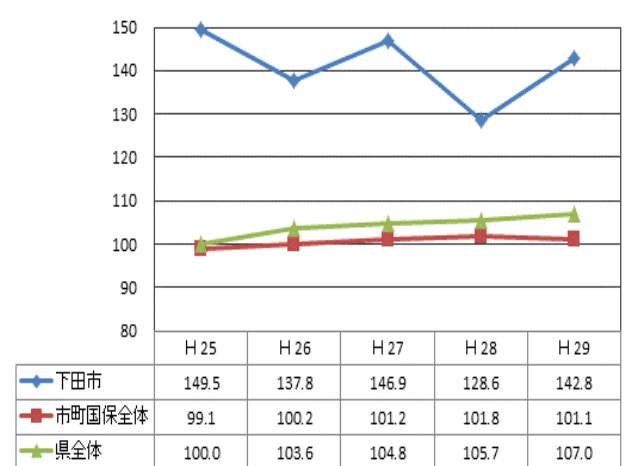


図 9 - 10 習慣的喫煙者(女性)



(出典：国保データベースシステム)

2. アンケートからみた市の現状

1. 調査結果概要

(1) 調査の目的

市民の皆さまの健康や生活習慣について率直なご意見をお伺いし、下田市健康増進計画に反映させるため、市民アンケート調査を実施しました。

(2) 調査概要

■調査地域：下田市全域

■調査対象者：20 歳以上の成人

■抽出方法：無作為抽出法

■調査期間：平成 31 年 2 月 14 日（木）～3 月 8 日（金）

■調査方法：郵送による配布、回収

■回収状況：アンケート送付数 1,385 人、回答数 426 人、回収率 31.8%

(3) 調査結果

① 身体活動・運動について

○日頃から意識的に身体を動かすことを心がけている人は、全体で 66.0%となっており、男女とも 60 歳代から 80 歳代での意識が高い傾向にあります。また、20 歳代から 50 歳代の世代においては、同世代における男女差が見られ、20 歳代男性が最も高く (76.9%)、最も低かったのは、50 歳代男性 (27.3%) となっています。(図 10)

○30 分以上週 2 回、1 年以上の運動を継続している人は、全体で 37.3%です。また、世代別では 70 歳代が最も高く、次いで 20 歳代 (男・53.8%) で、最も低かった世代 (男女) は、50 歳代です。(図 11)

○運動を継続するために必要なものは、「時間」が最も高く (図 12)、20 歳代から 30 歳代 (女性)、40 歳代から 50 歳代 (男性、女性) の 40%以上 (図 12-1) となっています。次いで、「仲間」「運動施設」でした。

○運動習慣のある人の種目は、全体で「ウォーキング」が最も多く、全世代においてウォーキングを行っています。(図 13・図 13-1)

図10 意識的に身体を動かす男女割合 (%)

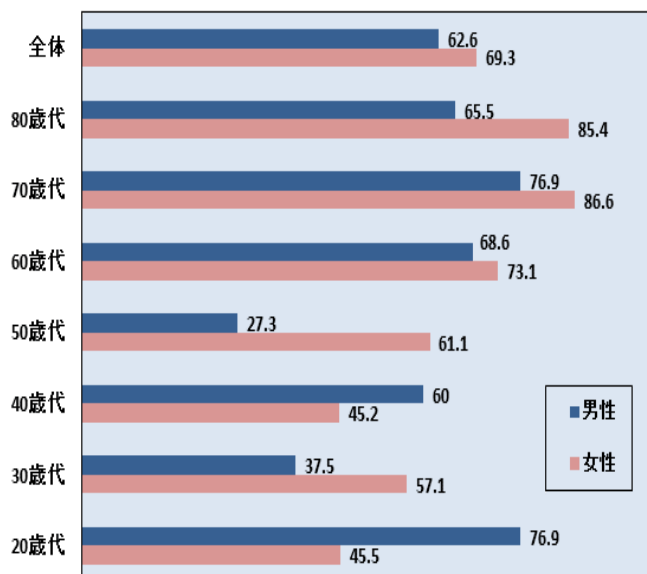


図11 30分週2回1年以上継続 (%)

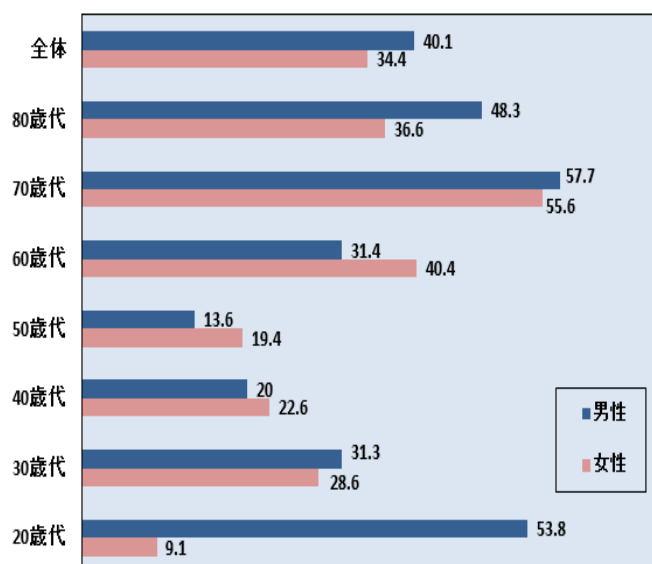


図12 運動継続に必要なものの割合 (%) 複数回答

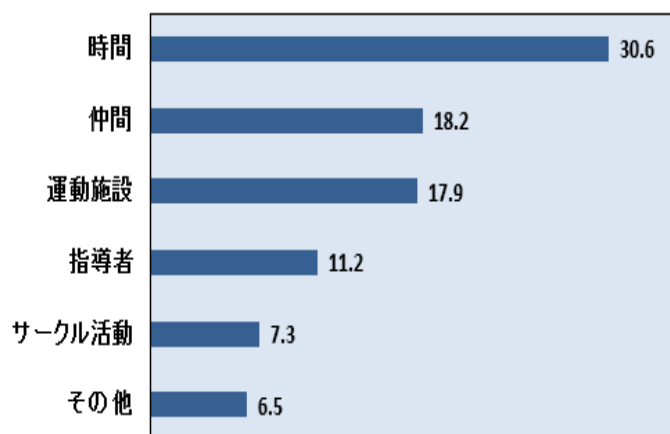


図12-1 時間回答者の割合 (%)

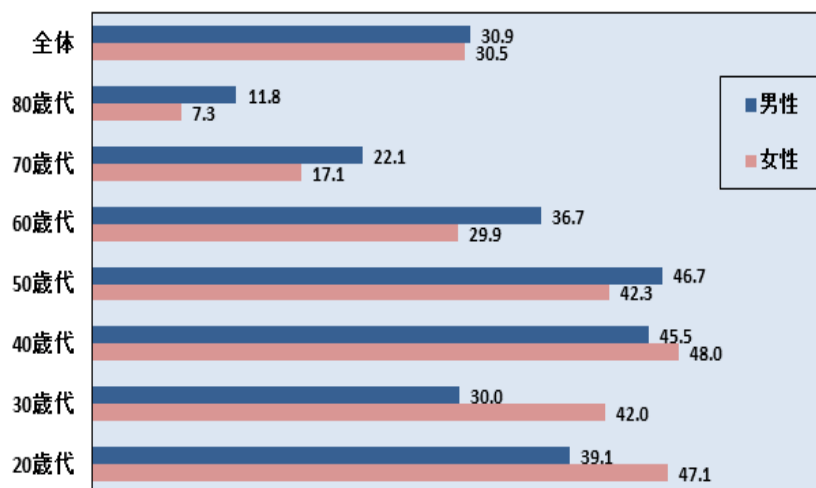


図13 どのような運動をしていますか(複数回答抜粋 (人))

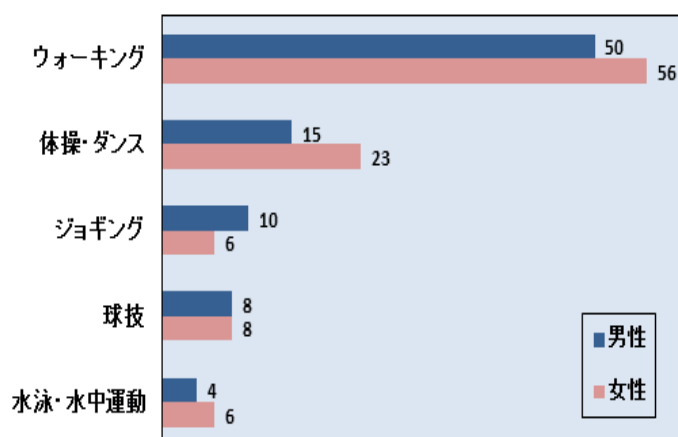
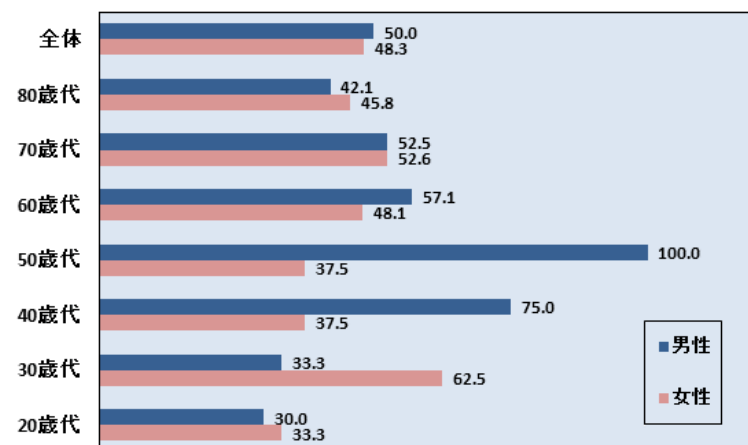


図13-1 ウォーキング回答者の割合 (%)



② 休養・ころについて

- 自分なりのストレス解消法を持っている人は、男女全体で 83.3%でした。(図 14)
- 男性は、50 歳代でストレス解消法がないと回答した人が 27.3%と他の年代より高い傾向でした。
- 生きがいを持つ人の割合は、男性 54.9%女性 54.1%で約半数の人が持っているが、80 歳代は男性 37.9%女性 39.0%と生きがいを持っている人が少ない結果でした。(図 15)
- ストレスの解消法は男女全体で「趣味を持つ」が最も多く、次いで「おしゃべり」「ゆっくり休む」「好きな物を食べる」「買い物をする」でした。(図 16)
- 睡眠休養が十分にとれていると答えた人は、男女全体で 68.3%でした。(図 17)
- 睡眠が十分にとれている人の割合を年代別でみると 50 代の女性が最も低く 47.2%でした。
- 隣近所との付き合いについては、男女全体で 70%強の人があると回答しています。

図14 ストレス解消法をもっていますか (%)

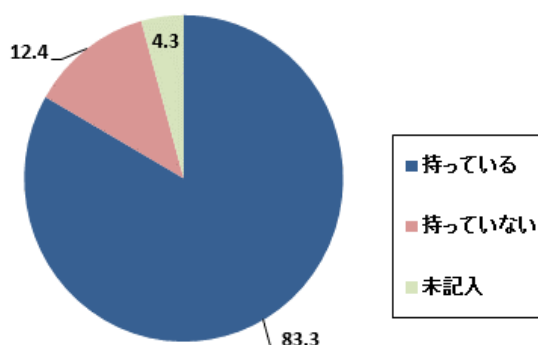


図15 生きがいのある人の割合 (%)

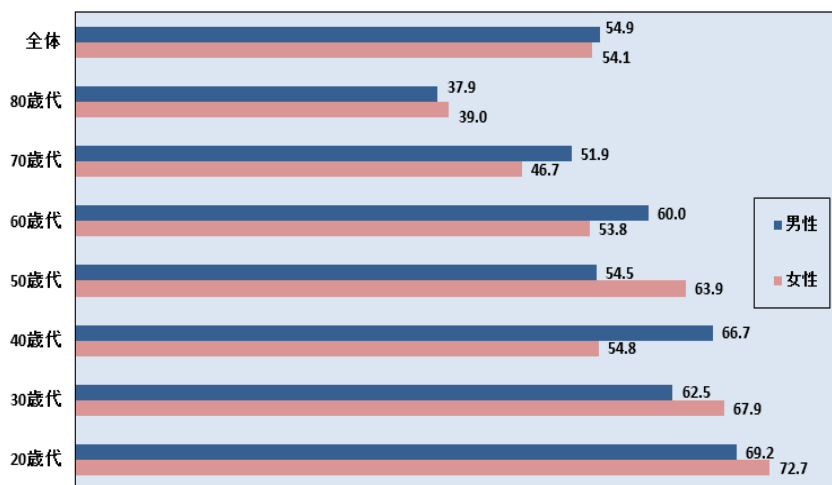


図16 ストレス解消法の種類(複数回答 抜粋(人))

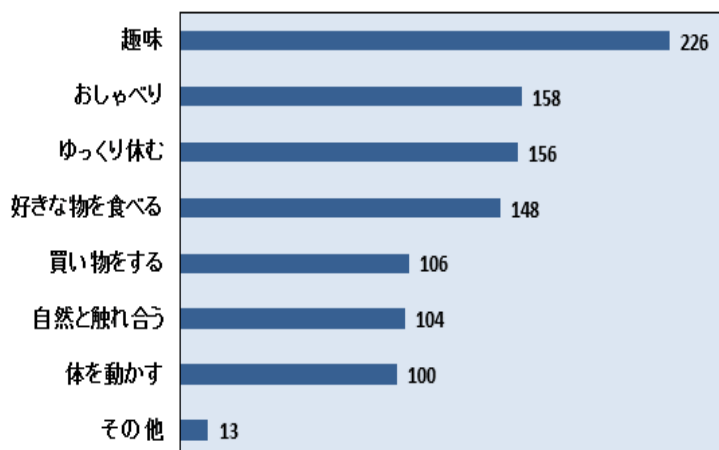
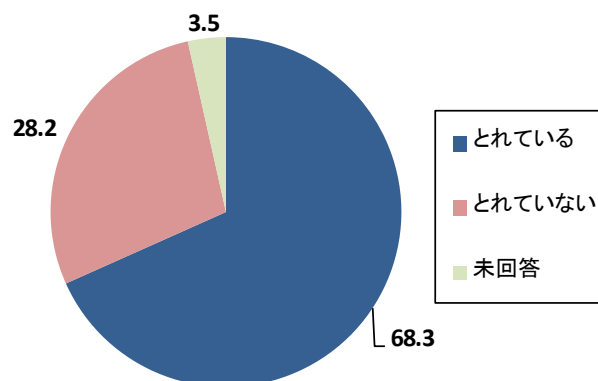


図17 睡眠で十分休養がとれていますか (%)



③ アルコールについて

- 飲酒の習慣のある人は、全体で男性 51.6%、女性 22.1%と差があります。
- 年代別でみると男性は 60 歳代、女性は 40 歳代がピークになっています。(図 18)
- 飲酒習慣のある人の中で休肝日を設けている人の割合から、男性約 4 割、女性約 6 割は毎日飲酒をしていることがわかりました。(図 19)
- 休肝日を設けていない年代・性別で高いのは男性 50 歳代で女性は 60 歳代です。(図 19)
- 40 歳代と 50 歳代の男性は約 3 割しか適正飲酒をしていません。(図 20)

図18 飲酒の習慣のある人の割合(%)

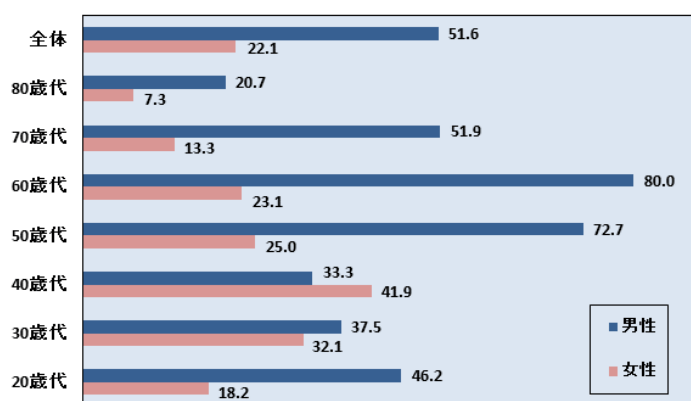


図19 休肝日を設けている人の割合(%)

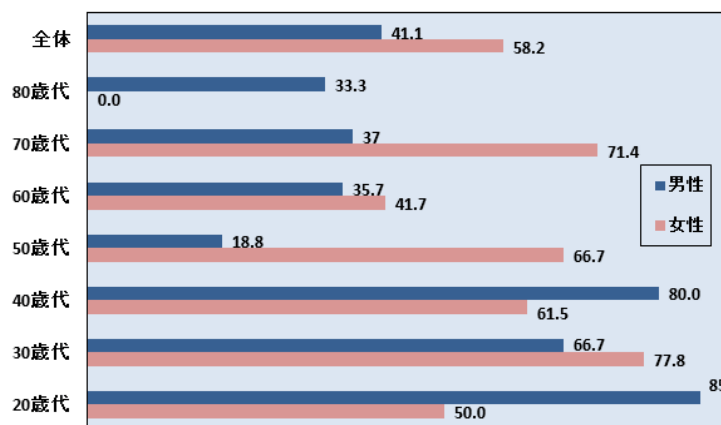
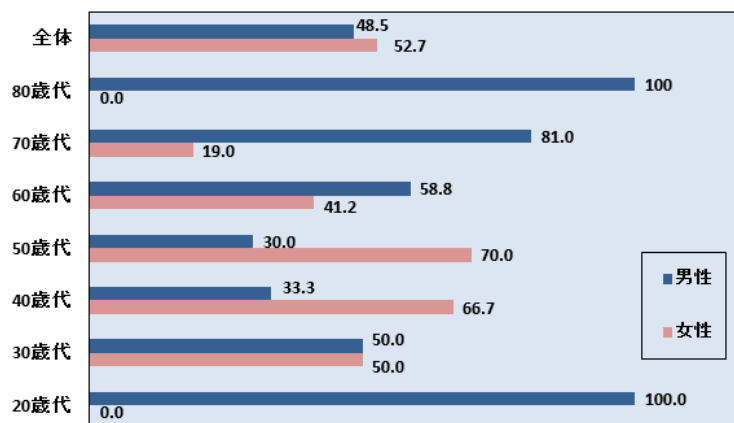


図20 基準量程度またはそれ以下で飲酒する人の割合(%)



④ たばこについて

- たばこを習慣的に吸っている人（今までに 100 本以上、又は 6 か月以上の喫煙）は、男女全体で 14.1%です。性別でみると男性 19.8%、女性 9.8%と 10 ポイントの差がみられます。（図 21）
- 喫煙者の 52.4%がたばこをやめたいと考えています。（図 22）
- 平成 30 年度の 4 か月児健診問診票によると母親の喫煙率は 4.4%です。
- 喫煙と低体重児の出生の因果関係も心配されますが、なかなか禁煙できていないのが現実です。4 か月児の子の父親の喫煙率も 35.0%と高く、幼い頃に受動喫煙の害にさらされる危険が大きいと予測されます。
- 禁煙のためのサポートで利用したいものは、禁煙外来情報の提供・禁煙教室・禁煙に関するパンフレットでした。（図 23）

図21 たばこを習慣的に吸っている人の割合(%)

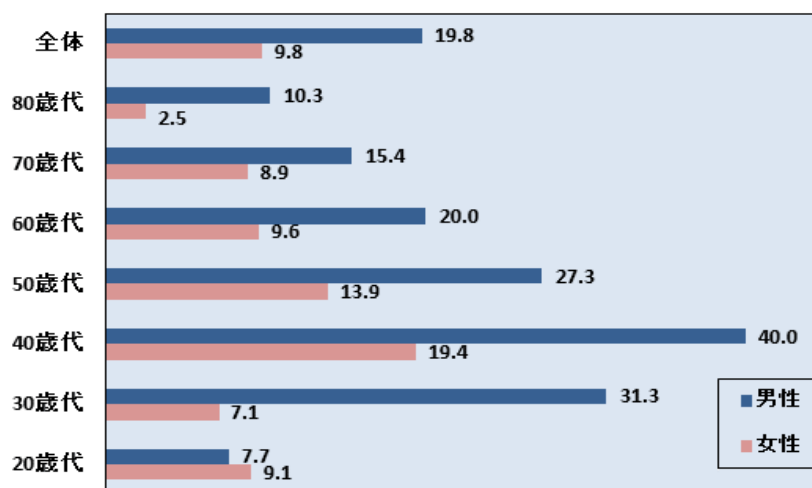


図22 禁煙したい人の割合(%)

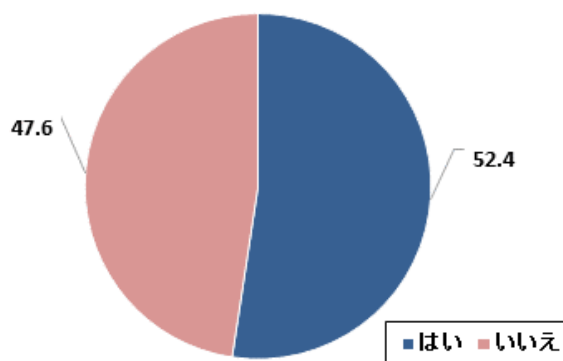
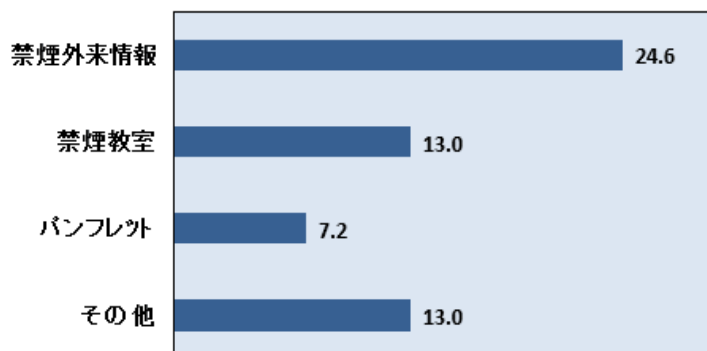


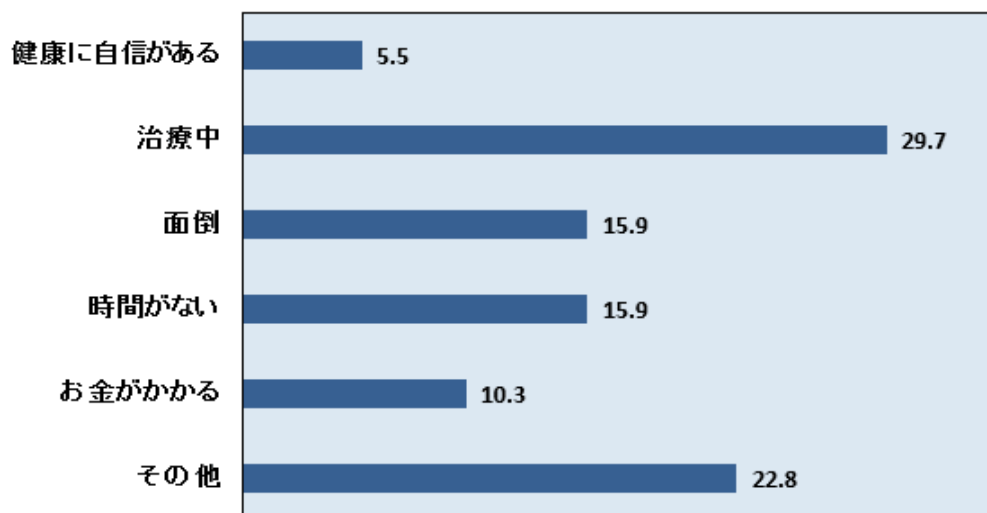
図23 サポート別希望割合(%)複数回答



⑤ 健診について

- 特定健診を受診しなかった理由についてみると、男女全体で「治療中」が29.7%で最も多くなっています。次いで「時間がない」「面倒」がともに15.9%でした。(図24)

図24 受診しなかった理由(%)複数回答



⑥ 歯について

○歯科検診を定期的に受けている人は、男女全体で 36.3%でした。(図 25)

○男性に比べると女性の方が、定期的に歯科検診を受けている人の割合は高くなっています。

○定期的に歯科検診を受けている者の割合は、各年代で 50%未満です。中でも 20 歳代及び 30 歳代の男性の割合が低くなっています。

○歯間清掃器具を使用する者の割合は 20 歳代で 20.8%と大変低く、30 歳代以上では約 50%となっています。(図 26)

図25 定期的に歯科検診を受ける人の割合(%)

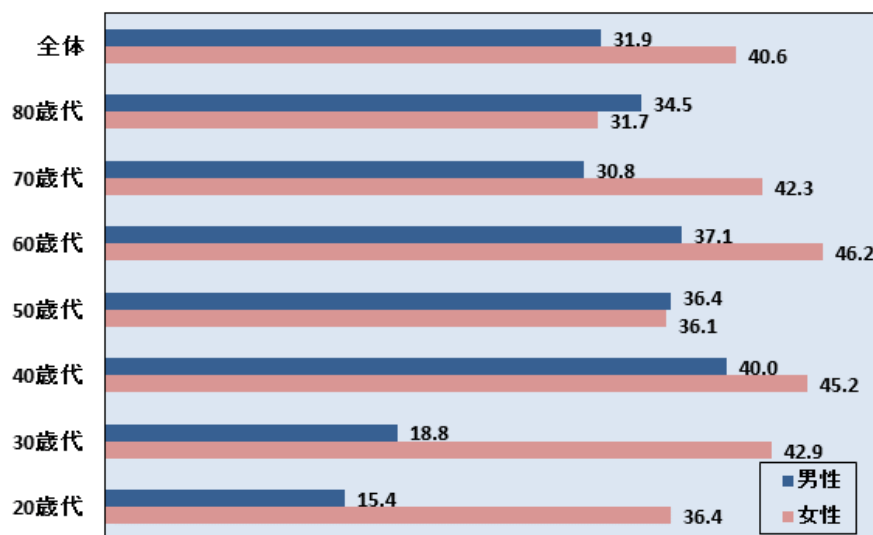
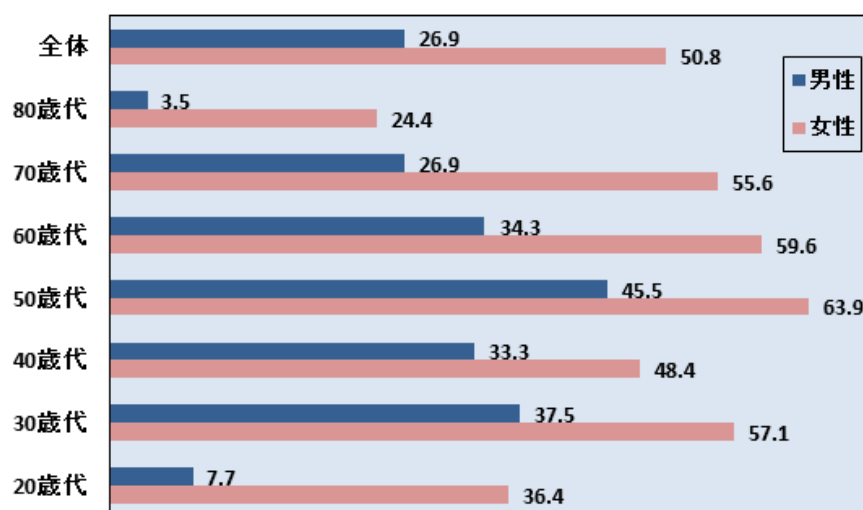


図26 歯ブラシ以外の歯間清掃器具を使用している人の割合(%)



⑦ 食生活について

○栄養バランスに気を付けている人の割合は、男性は 47.8%、女性は 66.0%でした。

ほとんどの年代で男性より女性の方が栄養バランスに気を付けている割合は高い状況です。(図 27)

○欠食する人の欠食するタイミングは、朝食が最も多い状況です。(図 28)

図27 栄養バランスに気を付けている人の割合(%)

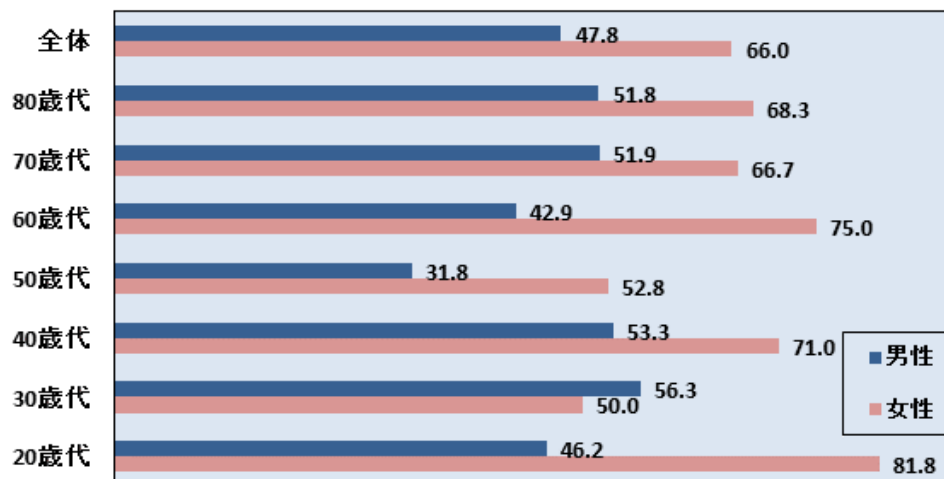
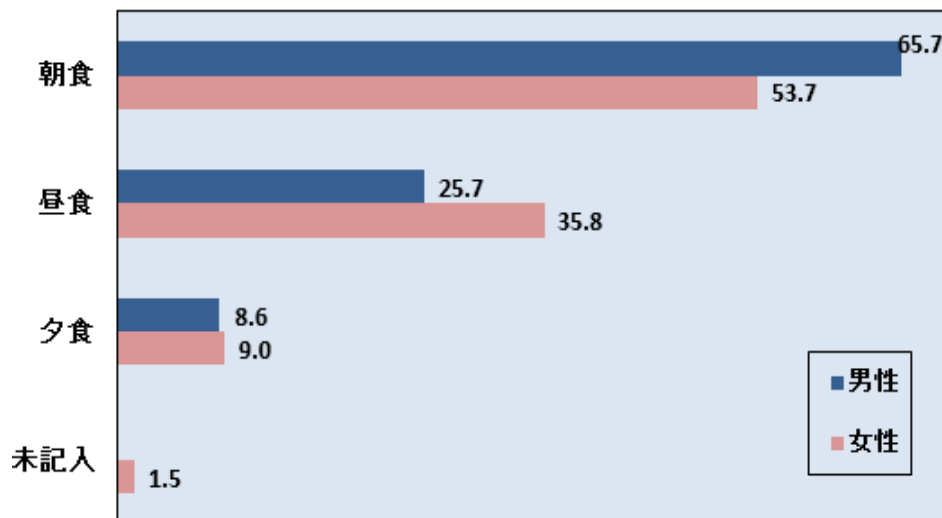


図28 欠食する食事(%)



3. 現行計画のふいかえり

目標達成状況

【評価区分】

評価区分		項目	達成割合
◎	c直近値がb目標値を上回っている	8	16.7%
○	c直近値がa基準値をよりも改善・向上している	15	31.2%
△	c直近値がa基準値とほぼ変わらない	3	6.2%
×	c直近値がa基準値よりも悪化・低下している	21	43.8%
—	データなし	1	2.1%
	全項目	48	100%

【運動】

男性の「運動習慣者の割合」「意識的に身体を動かすよう心がけている人の割合」は目標値に達成していません。

①運動習慣者の割合

	a基準値(平成24年度)	b目標値	c30年度値	c-b目標値比較	c-a基準値比較	評価
男性	41.6%	45.0%	40.1%	-4.9ポイント	-1.5ポイント	×
女性	35.9%	40.0%	34.4%	-5.6ポイント	-1.5ポイント	×

②意識的に身体を動かすように心がけている人の割合

	a基準値(平成24年度)	b目標値	c30年度値	c-b目標値比較	c-a基準値比較	評価
男性	65.7%	70.0%	62.6%	-7.4ポイント	-3.5ポイント	×
女性	63.9%	70.0%	69.3%	-0.7ポイント	5.4ポイント	○

【休養・こころ】

「自分なりのストレス解消法を持つ人」は目標に達していますが「睡眠で休養を十分とれる人の割合」は減っており目標に達していません。人口10万対の自殺者の数は、減っていますが目標に達していません。

①自分なりのストレス解消法を持つ人の割合

a基準値(平成24年度)	b目標値	c30年度値	c-b目標値比較	c-a基準値比較	評価
54.0%	67.0%	83.3%	16.3ポイント	29.3ポイント	◎

②睡眠で休養を充分とれる人の割合

a基準値(平成24年度)	b目標値	c30年度値	c-b目標値比較	c-a基準値比較	評価
69.9%	75.0%	68.3%	-6.7ポイント	-1.6ポイント	×

③自殺者の数(人口10万対)

a基準値(平成24年度)	b目標値	c30年度値	c-b目標値比較	c-a基準値比較	評価
41.3人	21.8人	31.6人	9.8人	-9.7人	○

【たばこ】

「たばこを習慣的に吸っている人の割合」は男性で減少傾向がみられましたが女性は増加しています。「たばこを習慣的に吸っている父は減っていますが、母には変化がありません。

①たばこを習慣的に吸っている人の割合

	a基準値(平成24年度)	b目標値	c30年度値	c-b目標値比較	c-a基準値比較	評価
男性	31.9%	14.0%	19.8%	5.8ポイント	-12.1ポイント	○
女性	8.4%	4.5%	9.8%	5.3ポイント	1.4ポイント	×

②たばこを習慣的に吸っている父・母の割合

	a基準値(平成24年度)	b目標値	c30年度値	c-b目標値比較	c-a基準値比較	評価
父	50.0%	40.0%	44.0%	4.0ポイント	-6ポイント	○
母	5.5%	0.0%	5.5%	5.5ポイント	0ポイント	△

【アルコール】

「休肝日を設けている人の割合」は、増加していますが目標に達していません。
また、「適量飲酒の知識を持つ人の割合」も減っています。

①休肝日を設けている人の割合

a基準値(平成24年度)	b目標値	c30年度値	c－b目標値比較	c－a基準値比較	評価
45.6%	55.0%	47.3%	-7.7%	1.7ポイント	○

②適量飲酒の知識を持つ人の割合

a基準値(平成24年度)	b目標値	c30年度値	c－b目標値比較	c－a基準値比較	評価
36.1%	40.0%	32.6%	-7.4%	-3.5ポイント	×

【健診】

「がん検診・特定健診の受診率」は、低迷しています。

「特定保健指導実施率」は増加していますが目標に達していません。

「がん精密検査受診率」は、乳がん・子宮頸がん検診を除いて低迷しています。

メタボリックシンドローム該当者率は減っており、目標に達しています。

男性の脂質異常者が増えており、高血圧症有病者は目標に達していません。

女性の脂質異常と男女の糖尿病有病者は目標に達しました。

①各種健（検）診受診率

	a基準値(平成20年度)	b目標値	c30年度値	c－b目標値比較	c－a基準値比較	評価
胃がん	17.8%	50.0%	6.5%	-43.5ポイント	-11.3ポイント	×
大腸がん	26.6%	50.0%	16.3%	-33.7ポイント	-10.3ポイント	×
肺がん	22.3%	50.0%	15.4%	-34.6ポイント	-6.9ポイント	×
子宮がん	16.2%	50.0%	11.6%	-38.4ポイント	-4.6ポイント	×
乳がん	20.7%	50.0%	15.9%	-34.1ポイント	-4.8ポイント	×
特定健診	30.5%	60.0%	31.1%	-38.3ポイント	-6.2ポイント	○

②特定保健指導実施率（国民健康保険加入者40～74歳）

	a基準値(平成24年度)	b目標値	c30年度値	c－b目標値比較	c－a基準値比較	評価
指導率	6.4%	60.0%	21.6%	-38.4ポイント	-15.1ポイント	○

*第2期特定健康診査等実施計画書

③メタボリックシンドローム該当者率（国民健康保険加入者40～74歳）

	a基準値(平成24年度)	b目標値	c30年度値	c－b目標値比較	c－a基準値比較	評価
男性	29.9%	27.1%	21.8%	-5.3ポイント	-8.1ポイント	◎
女性	11.9%	10.9%	10.1%	-0.8ポイント	-1.8ポイント	◎

④がん精密検査受診率

	a基準値(平成24年度)	b目標値	c30年度値	c－b目標値比較	c－a基準値比較	評価
胃がん	93.1%	100%	86.7%	-13.3ポイント	-6.4ポイント	×
大腸がん	87.5%	100%	79.3%	-20.7ポイント	-8.2ポイント	×
肺がん	87.5%	100%	82.6%	-17.4ポイント	-4.9ポイント	×
子宮がん	100.0%	100%	100.0%	0.0ポイント	0.0ポイント	◎
乳がん	88.2%	100%	90.6%	-9.4ポイント	2.4ポイント	○

※平成29年度値

⑤高血圧症有病者の割合40～74歳

	a基準値(平成24年度)	b目標値	c30年度値	c－b目標値比較	c－a基準値比較	評価
男性	53.1%	39.0%	47.6%	8.6ポイント	-5.5ポイント	○
女性	43.8%	32.5%	36.4%	3.9ポイント	-7.4ポイント	○

⑥脂質異常症有病者の割合40～74歳

	a基準値(平成24年度)	b目標値	c30年度値	c－b目標値比較	c－a基準値比較	評価
男性	57.0%	54.0%	58.6%	4.6ポイント	1.6ポイント	×
女性	60.3%	57.1%	55.4%	-1.7ポイント	-4.9ポイント	◎

⑦糖尿病有病率40～74歳

	a基準値(平成24年度)	b目標値	c30年度値	c－b目標値比較	c－a基準値比較	評価
男性	11.7%	12.0%	11.7%	0ポイント	-0.3ポイント	◎
女性	5.7%	6.1%	5.6%	-0.1ポイント	-0.5ポイント	◎

【歯】

「5歳児のむし歯有病率」は減少傾向にあり、目標を達成しています。
「中学3年生のむし歯多発児率」は増加しています。
フッ素洗口は小中学校において実施がなされていないため現状維持の状態です。

①甘いおやつ摂取回数が1日2回以上の4歳児の割合

a基準値(平成20年度)	b目標値	c30年度値	c-b目標値比較	c-a基準値比較	評価
26.1%	20.0%	—	—	—	—

②5歳児のむし歯有病率

a基準値(平成20年度)	b目標値	c30年度値	c-b目標値比較	c-a基準値比較	評価
47.7%	40.0%	23.9%	-16.1ポイント	-23.8ポイント	◎

③中学3年生のむし歯多発児率

a基準値(平成20年度)	b目標値	c30年度値	c-b目標値比較	c-a基準値比較	評価
5.1%	0.0%	6.4%	6.4ポイント	1.3ポイント	×

④フッ素洗口実施施設数

	a基準値(平成20年度)	b目標値	c30年度値	c-b目標値比較	c-a基準値比較	評価
保育所	8/8	8/8	4/4	0	0	○
幼稚園	4/4	4/4	2/2	0	0	○
小学校	0/7	増加	0/7	0	0	△
中学校	0/4	増加	0/4	0	0	△

※保育所・幼稚園の施設数が増えています。

【栄養・食生活】

「栄養バランスに気をつけている人の割合」は、増加傾向ですが、目標に達していません。
「BMI標準値の人の割合」は減少傾向です。
「欠食の割合」は、20代男女は減少傾向でしたが、30代男女は増加しました。
「朝食を毎日食べる児童の割合」は減少しましたが、ほとんどの生徒が朝食を毎日食べている状況です。

①栄養バランスに気をつけている人の割合

a基準値(平成24年度)	b目標値	c30年度値	c-b目標値比較	c-a基準値比較	評価
51.3%	55.0%	58.2%	3.2ポイント	6.9ポイント	○

②BMI標準値の人の割合

	a基準値(平成24年度)	b目標値	c30年度値	c-b目標値比較	c-a基準値比較	評価
男性	72.8%	80.0%	68.1%	-11.9ポイント	-4.7ポイント	×
女性	73.1%	80.0%	72.4%	-7.6ポイント	-0.7ポイント	×

③欠食の割合

	a基準値(平成24年度)	b目標値	c30年度値	c-b目標値比較	c-a基準値比較	評価
20代男性	54.5%	10.0%	53.8%	43.8ポイント	-0.7ポイント	○
20代女性	31.3%	10.0%	27.3%	17.3ポイント	-4ポイント	○
30代男性	33.3%	10.0%	50.0%	40.0ポイント	16.7ポイント	×
30代女性	22.2%	10.0%	42.9%	32.9ポイント	20.7ポイント	×

④朝食を毎日食べる児童の割合(小学校1年生～6年生)

a基準値(平成24年度)	b目標値	c30年度値	c-b目標値比較	c-a基準値比較	評価
98.1%	100%	97.7%	-0.4ポイント	-2.3ポイント	×